ONKYO®



GX-R3X

POWERED SPEAKER SYSTEM

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書、オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内とともに大切に保管してください。

特長

カタログおよび包装箱などに表示されている型名の最後のアルファベットは製品の色を表す記号です。色は異なっても操作方法や仕様は同じです。

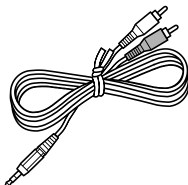
■ 本機は8cmOMFダイヤフラム（OMFとはOnkyo Micro Fiber（オンキヨー マイクロ ファイバー）の略です）を採用し、クリアでリアルなサウンドを再生することができるアンプ内蔵のスピーカーシステムです。
■ サブウーファー出力端子にお手持ちのサブウーファーを接続して、さらにクオリティーの高い低音を再生することができます。
■ RCAピンジャック入力端子にお手持ちの機器を接続して、高品位な音をお楽しみいただけます。
■ BASS（バス）つまみを使って好みに応じて低音レベルの調整ができます。
■ ヘッドホン端子を使用して深夜など周りの迷惑にならずにクオリティの高い音を楽しむことができます。（再生音のクオリティは、お手持ちのヘッドホンに左右されます。）

- WAVIO®の名称、ロゴはオンキヨー（株）の登録商標です。
- OMF®の名称、ロゴはオンキヨー（株）の登録商標です。

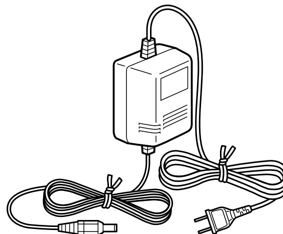
付属品

ご使用の前に次の付属品がそろっていることをお確かめください。
（　）内の数字は数量を表わしています。

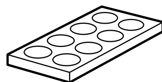
- アナログ入力用接続コード（1）
〔ステレオピンプラグ⇔ステレオミニプラグ(1.0m)〕



- 電源アダプター(1)



- スペーサー(8)
(☞12ページ)



- 取扱説明書(本書1)
- 保証書(1)
- オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内(1)

ご注意

- 梱包材や外箱は、修理および交換時の輸送用として使用する場合のために処分せずに保管しておくことをおすすめします。もし、開梱時に損傷などが発見された場合や内容物が不足しているときは、そのままの状態を保ち、お買い上げになった販売店までご連絡ください。そのままではご使用にならないでください。
- 本機に付属している専用電源アダプター以外は絶対に接続しないでください。故障の原因となります。付属の専用電源アダプター以外のものを使用されたことにより本機が故障した場合、保証の対象外となりますのでご注意ください。

オーディオ機器の正しい使いかた

オーディオ機器を安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

絵表示について

この「取扱説明書」および製品の表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



⚠警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

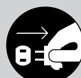


△ 記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。



⦸ 記号は禁止の行為であることを告げるものです。

図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。





●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

図の中や近傍に具体的な指示内容（左上図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠警告

■ 故障したままの使用はしない


電源プラグをコンセントから抜いてください

● 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本機の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理を依頼してください。

■ 絶対に裏ぶた、カバーははずさない、改造しない


分解禁止

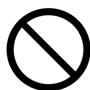
● 本機の裏ぶたは絶対にはずさないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。
● 本機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 100V以外の電圧で使用しない



● 本機を使用できるのは日本国内のみです。
● 表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧や船舶などの直流（DC）電源には絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 放熱を妨げない



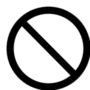
● 本機を逆さまや横倒しにして使用しないでください。
● 本機を押し入れや本箱など風通しの悪い狭い所に押し込んで使用しないでください。
● 本機を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は、少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から5cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり火災の原因となります。

■ 水のかかるところに置かない


水場での使用禁止

● 風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。
● 本機は屋内専用に設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。

■ 水の入った容器を置かない



● 本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器を置かないでください。こぼれて中に入った場合、火災・感電の原因となります。

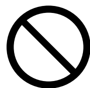
■ 中に水や異物が入ったら


電源プラグをコンセントから抜いてください

● 万一、本機の内部に水や異物が入った場合は、すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

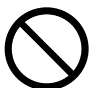
⚠注意

■ 設置上の注意



● ぐらついた台の上や傾いた所、厚手のじゅうたんの上など不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。
● 移動させる場合は、サランネットやスピーカーユニットに手をかけないでください。故障やけがの原因となることがあります。
● 移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、接続コード、スピーカーコードをはずしてから行ってください。落下・転倒など、思わぬ事故の原因となることがあります。

■ 次のような場所に置かない



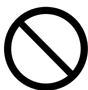
● 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
● 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 接続について



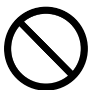
- 本機を他のオーディオ機器やテレビなどの機器に接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源スイッチを切り、説明に従って接続してください。

■ 使用上の注意

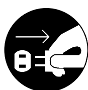


- 音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
- 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。
- キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけないでください。スピーカーの磁気の影響で使えなくなったり、データが消失することがあります。
- 長時間音がひずんだ状態で使わないでください。スピーカーなどが発熱し、火災の原因となることがあります。

■ 電源コード、電源プラグの注意



- 電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
- 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
- 電源コードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。



電源プラグをコンセントから抜いてください

- 旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
- 移動させる場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、接続コードなど外部の接続コードをはずしてから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

■点検について



電源プラグをコンセントから抜いてください

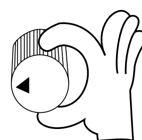
- お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。



- 電源プラグにほこりがたまると自然発火（トラッキング現象）を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。
- 使用環境にもよりますが、2年に1回程度の機器内部の掃除をお勧めします。もよりの販売店にご相談ください。
本機の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。

音のエチケット

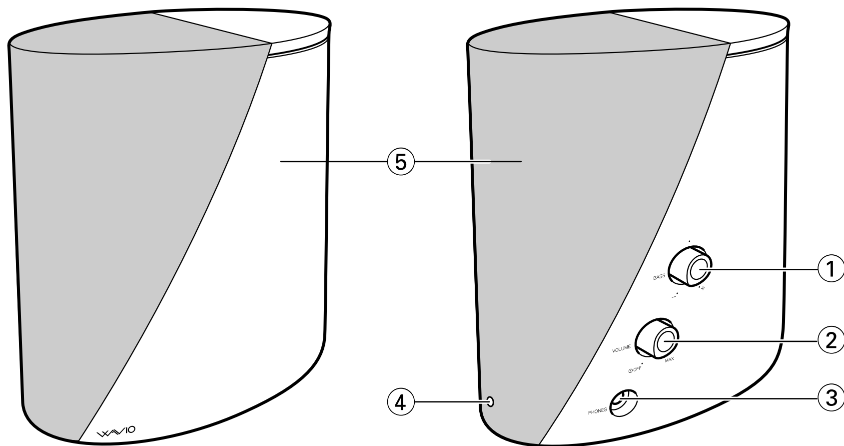
楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣り近所への配慮を十分にしましょう。
特に静かな夜間には音量を下げてききましょう。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。



各部の名前と主な働き

■ 操作部

左チャンネル用スピーカー　　右チャンネル用スピーカー



① バスつまみ（BASS）

低音部の再生レベルを調整します。
つまみを右に回すと、再生レベルが大きくなり、左に回すと小さくなります。
通常使用時は、中央の位置にしておきます。

② 電源・ボリューム調整つまみ（OFF・VOLUME）

電源スイッチとボリュームを兼用しています。つまみを右に回すと電源が入り、徐々に音量が大きくなります。左に回すと小さくなり、OFFの位置まで戻すと電源が切れます。

③ ヘッドホン端子（PHONES）

ステレオミニプラグのヘッドホンやイヤホンを接続します。接続するとスピーカーからの音は聞こえなくなります。

④ パワーインジケーター（POWER）

電源・ボリューム調整つまみを右に回し、電源が入ると点灯します。

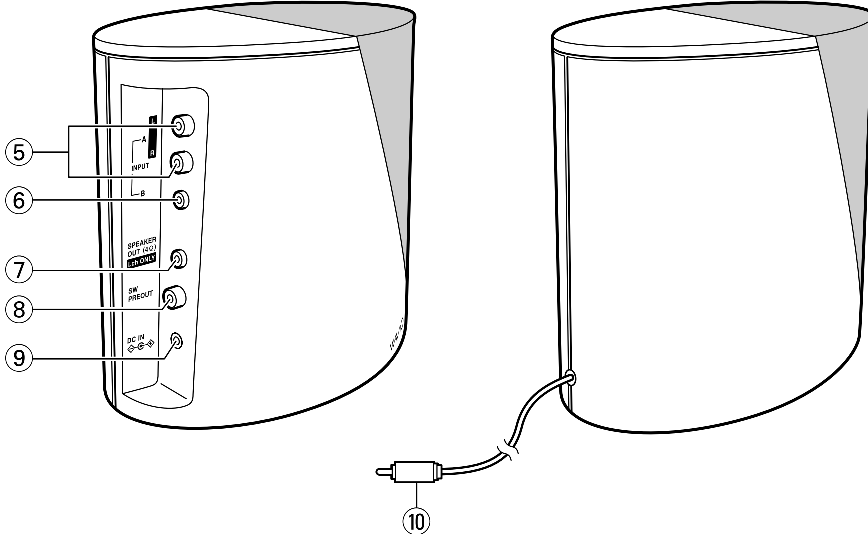
⑤ サランネット

ご注意

このスピーカーシステムは前面のサランネットを取りはずすことができない構造になっています。無理にはずそうとすると、故障の原因となりますのでおやめください。

■ 端子部

右チャンネル用スピーカー　　　　　　　　左チャンネル用スピーカー



⑤ 信号入力端子
（RCAピンタイプ INPUT A L/R）
本機に信号を入力するための端子です。RCAピンジャックの入力端子です。

⑥ 信号入力端子
（ミニジャックタイプ INPUT B）
本機に信号を入力するための端子です。
φ3.5ミニジャックの入力端子です。

⑦ 左チャンネル用スピーカー出力端子
〔SPEAKER OUT（4Ω）Lch ONLY〕
左チャンネル用スピーカーと接続するための端子です。左チャンネルスピーカー以外は接続しないでください。

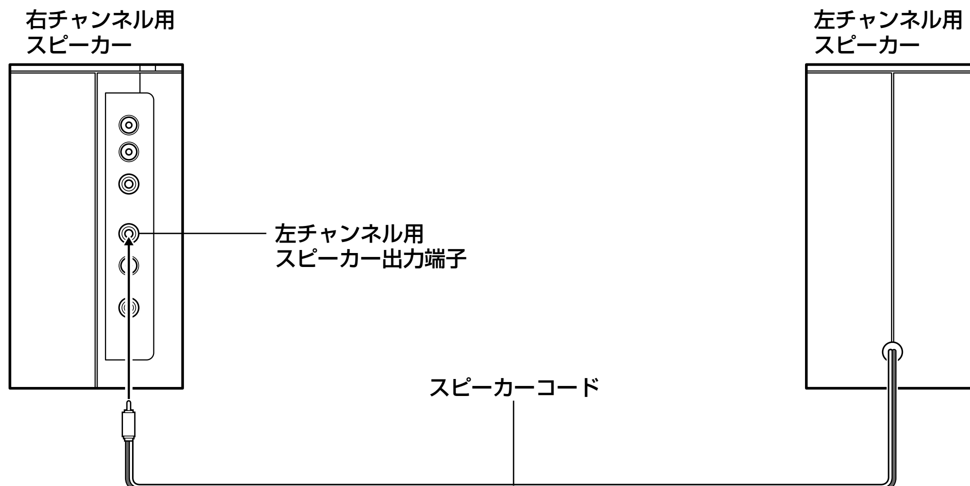
⑧ サブウーファー出力端子(SW PREOUT)
本機とお手持ちのアンプ内蔵サブウーファーとを接続するための端子です。
モノラル出力です。

⑨ 電源アダプター接続端子（DC IN）
本機に電源を供給するために、電源アダプターを接続する端子です。
付属の専用電源アダプターをご使用ください。

⑩ スピーカーコード
右チャンネル用スピーカーのSPEAKER OUT端子⑦に接続します。

左右のスピーカーを接続する

左チャンネル用スピーカーのスピーカーコードを右チャンネル用スピーカー後面のスピーカー出力端子に接続します。



ご注意

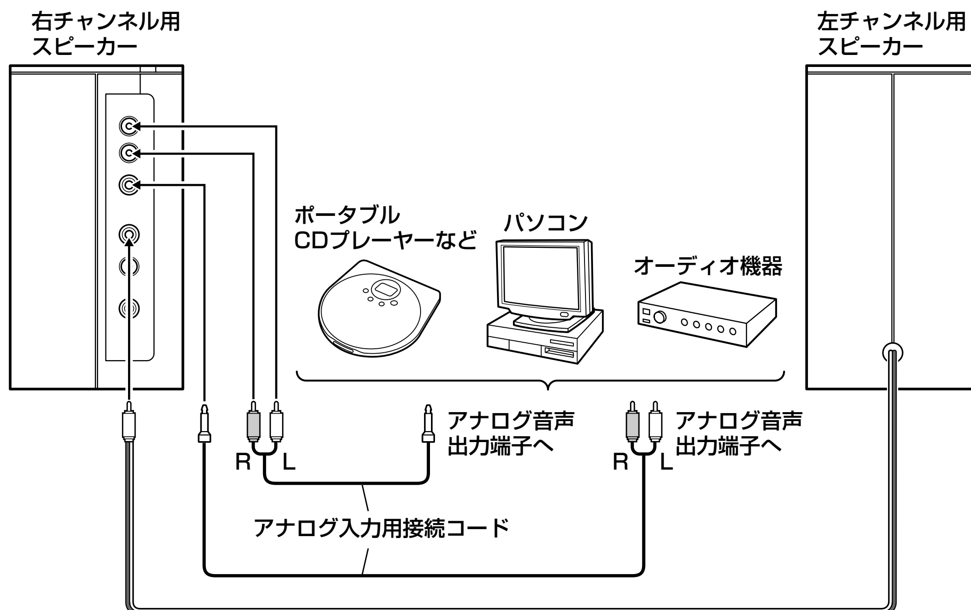
- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- 電源を入れる前には、必ずボリュームツマミを左に回して「OFF」の位置にしておいてください。
  また、本機に接続する他の機器の電源も入れないでください。
- 「SPEAKER OUT（4Ω）Lch ONLY」端子は左チャンネル用スピーカーを接続する専用の端子です。他のスピーカーやアンプは接続しないでください。
- 左チャンネル用スピーカーのスピーカーコードは右チャンネル用スピーカーのSPEAKER OUT端子に接続する専用コードです。他のスピーカーやアンプには接続しないでください。

外部機器を接続する

本機には2つのアナログ入力端子がありますので、2種類の音声機器やPC（コンピューター）機器を接続することができます。

■ アナログ入力を接続する場合

オーディオ機器、コンピューター本体またはサウンドボードのアナログ音声出力端子と本機のINPUT（インプット） AまたはBを付属のアナログ入力用接続コードで接続します。（R端子には赤いプラグを、L端子には白いプラグを差し込んでください）

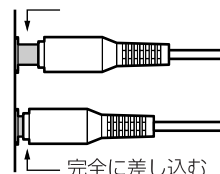


！ヒント

- 本機にはステレオピンプラグ⇔ステレオミニプラグのアナログ入力用接続コードが付属されています。接続する機器側がステレオミニプラグ用端子の場合は、本機のINPUT A L/R端子をご使用ください。接続する機器側がステレオピンプラグ用端子の場合は、本機のINPUT B端子をご使用ください。
- 接続する機器がステレオピンプラグ用端子で本機のINPUT A L/R端子をご使用になりたい場合や、接続する機器がステレオミニプラグ用端子で本機のINPUT B端子をご使用になりたい場合は、それぞれ、ステレオピンプラグ⇔ステレオピンプラグ、ステレオミニプラグ⇔ステレオミニプラグの接続コードを別途ご用意ください。

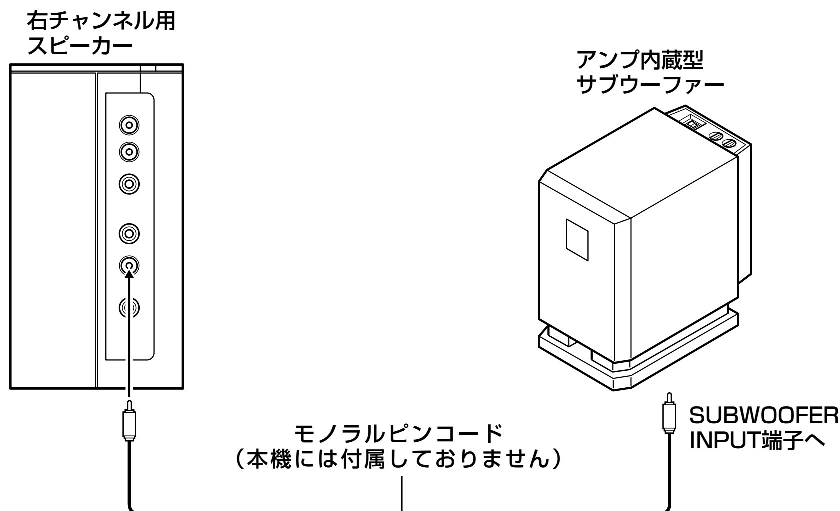
ご注意

- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全だと、雑音や動作不良の原因になります。
- 付属のアナログ入力用接続コード、電源コードは、いっしょに束ねないでください。音質が悪くなることがあります。
- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。



サブウーファーを接続する

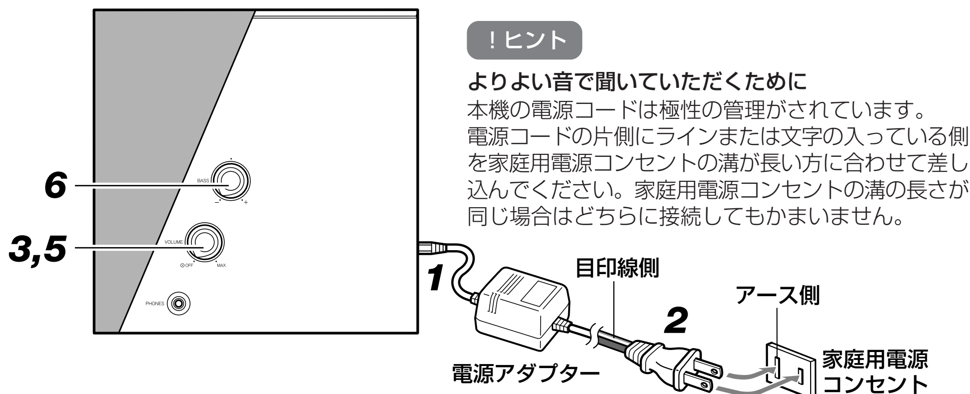
本機のサブウーファー出力端子（SW PRE OUT）の出力は、左右の信号をミックスした信号で高域成分を含んでいます。
接続するサブウーファーは、ハイカットフィルターおよび、ボリューム内蔵のものを使用してください。また、サブウーファーは、メーカー、機種により入力感度が異なります。 ご使用になるサブウーファーによりレベルを調整し、お楽しみください。



ご注意

- サブウーファー出力端子（SW PRE OUT）と、サブウーファーの入力端子をモノラルピンコードで接続してください。（本機には付属していません。）
- 電源を入れる前に、サブウーファーのボリュームを必ず最小の位置にしておいてください。
- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。

音を楽しむ



!ヒント

よりよい音で聞いていただくために
本機の電源コードは極性の管理がされています。
電源コードの片側にラインまたは文字の入っている側を家庭用電源コンセントの溝が長い方に合わせて差し込んでください。家庭用電源コンセントの溝の長さが同じ場合はどちらに接続してもかまいません。

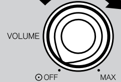
1 電源アダプターを接続する

すべての接続が完了したら、電源アダプターを本機に接続します。

2 家庭用電源コンセントに接続する

電源アダプターのプラグを家庭用電源コンセントに差し込んでください。

3 電源を入れる

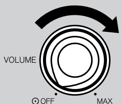


右チャンネルス用ピーカーのボリュームつまみを右に回してください。電源が入り、前面のパワーインジケーターが点灯します。

4 機器を再生する

INPUT(インプット) Aに接続した機器と、INPUT Bに接続した機器を同時に再生すると両方の音声がミックスされます。

5 音量を調整する

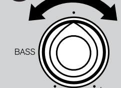


右チャンネル用スピーカーのボリュームつまみでお好みの音量にします。

!ヒント

接続する機器により出力の大きさが異なるため、本機のボリュームを最大位置にしても極端に音量が小さい場合があります。このようなときは、ポータブルCDプレーヤーなどボリュームがついている機器の場合は、プレーヤー側のボリュームを上げて適正な入力が本機に入るようにしてください。

6 音質を調整する



お好みに合わせてバスつまみで低音の再生レベルを調整してください。

設置について

- 本機を設置する場所は、温度や湿度の極端に高いところや低いところは好ましくありません。直射日光の当たる所や冷暖房器具の近く、湿気の多いところは避けてください。
- 本機は立てた状態で使用するように設計されておりますので、寝かせたり、傾けたりしないでください。
- 本機は通常のご使用には十分耐えられますが、次のような特殊な信号が加えられますと、過大電流による焼損断線事故の恐れがありますので、ご注意ください。
  ① オーディオチェック用CDなどの特殊な信号音
  ② ピンコードなど、接続端子の抜き差し時のショック音
  （抜き差し時は必ず本機の電源を切ってから行ってください。）
  ③ マイク使用時のハウリング
  ④ カラオケ等で使用した際の過大な音声出力
- スピーカーと設置場所との間は面接触より点接触のほうが一般的によい結果が得られます。またガタツキがあると質の良い低音が得られなくなりますので付属のスペーサーやコインのような金属板を使ってガタツキがなくなるようにしてください。
- 本機の背面部はご使用の状況により、高温になることがあります。カーテンなどの可燃物への接触や、火傷にご注意ください。

防磁設計について

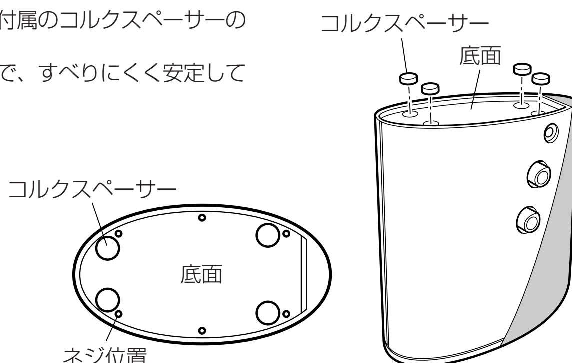
一般にパソコンやカラーテレビに使用されているブラウン管は、地磁気の影響さえ受けるほどのデリケートなものですので、普通のスピーカーを近づけて使用すると、画面に色むらやひずみが発生します。本機は、（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の技術基準に適合した防磁設計を施していますので、パソコンモニターなどとの近接使用が可能となっています。ただし、設置の仕方によっては色むらが生じる場合があります。その場合は一度パソコンモニターなどの電源を切り、15～30分後に再びスイッチを入れてください。パソコンモニターなどの自己消磁機能によって画面への影響が改善されます。その後も色むらが残る場合にはスピーカーをパソコンモニターなどから少しはなしてご使用ください。また近くに磁石など磁気を発生するものが置かれていますと、本機との相互作用によりパソコンモニターなどに色むらが発生する場合がありますのでご注意ください。

お手入れについて

表面は、時々柔らかい布でからぶきしてください。汚れがひどいときは中性洗剤を薄めた液に、柔らかい布を浸し、固くしぼって汚れをふきとったあと乾いた布で仕上げをしてください。
固い布や、シンナー、アルコールなど揮発性のものは、ご使用にならないでください。化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。
サランネットにほこりがついたときは、掃除機で吸い取るかブラシをかけるとよくほこりを取ることができます。

スペーサーについて

より良い音でお楽しみいただくために、付属のコルクスペーサーのご使用をおすすめします。
また、コルクスペーサーを使用することで、すべりにくく安定して設置することができます。
ネジ位置を避けて貼り付けてください。
※コルクスペーサーは右チャンネル用スピーカー、左チャンネル用スピーカーともに同じ場所に貼り付けてください。



困ったときは

下の表で点検してみてください。接続した他機に原因がある場合もありますので、他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。

症　状	原　因	処　置
電源が入らない。	● 電源プラグの差し込みが不完全。 ● 電源アダプターの接続端子の差し込みが不完全。	● 電源プラグをコンセントにしっかり差し込んでください。（11ページ） ● 電源アダプターのプラグを本体にしっかり差し込んでください。（11ページ）
音が出ない。	● ボリュームつまみが最小になっている。 ● 入力ピンプラグもしくはミニプラグがはずれている。	● 適当な音量にしてください。（11ページ） ● ピンプラグもしくはミニプラグを正しく接続してください。（8〜10ページ）
左チャンネル用スピーカーから音が出ない。	● スピーカーコードの接続が不完全。	● スピーカーコードを正しく接続してください。（8ページ）
音が小さい。	● ボリュームつまみの位置が不適切。 ● 接続している他機の出力が小さい。	● 正しい位置にあわせてください。（11ページ） ● 接続している他機のボリュームを上げてください。（11ページ）
片方のスピーカーからしか音が出ない。	● 接続が不完全。 ● 入力音源がモノラル音源。	● 入力ピンプラグもしくはミニプラグを正しく接続してください。（8、9ページ） ● スピーカーコードを正しく接続してください。（8ページ） ● モノ→ステレオ交換アダプターを別途購入してださい。
ブーンというハム音が入る。	● ピンプラグもしくはミニプラグの差し込みが不完全。 ● 外部のリーケージフラックス（テレビ等からの誘導雑音）	● ピンプラグもしくはミニプラグをしっかり差し込んでください。（8〜10ページ） ● 雑音源より離してください。
サブウーファーから音が出ない。	● サブウーファーの電源が入っていない。 ● ピンプラグが抜けている。	● サブウーファーの電源を入れてください。 ● ピンプラグをしっかり差し込んでください。（10ページ）
サブウーファーの音が小さい。	● サブウーファーのボリューム位置が不適当。 ● ソースに低音が入っていない。	● サブウーファーのボリュームを適当な位置まで上げてください。 ● 低音の入ったソースでお楽しみください。

ご注意

低域を極端にブースト（増強）したり、低域や高域が異常に強調された特殊なソースを再生した場合、本来の信号音以外に異常な音を発生する場合があります。これは、故障ではありませんが、このような状態で長時間ご使用になると、スピーカーユニット破損の原因となりますので、音量を下げてご使用ください。

主な仕様

形　　　　　式	アンプ内蔵フルレンジ·バスレフ型
入力インピーダンス	10kΩ
入　力　感　度	220mV（Vol. MAX時）
実用最大出力	6W+6W（4Ω、JEITA）
定格周波数範囲	55～20kHz
キャビネット内容積	1.8ℓ
外　形　寸　法	Rチャンネル　99（W）×170（H）×170（D）mm （サランネット、ターミナル突起部含む） Lチャンネル　91（W）×170（H）×170（D）mm （サランネット、ターミナル突起部含む）
質　　　　　量	Rチャンネル　0.8kg Lチャンネル　0.7kg
使用スピーカー	フルレンジ8cm OMFコーン型
外部入力端子	アナログ入力×2（RCAステレオ×1、ステレオミニ×1）
外部出力端子	サブウーファー出力（RCAモノラル）×1、ヘッドホン出力（φ3.5mm/ステレオ）×1
電　　　　　源	100V（50/60Hz）（付属の専用電源アダプター使用時）
消　費　電　力	19W（付属の専用電源アダプター使用時）
そ　　の　　他	防磁設計（JEITA） サランネット脱着不可

仕様および外観は性能向上のため予告なく変更することがあります。
本機は日本国内専用モデルですので、外国で使用することはできません。

修理について

■ 保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

■ 調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、電源プラグを抜いて修理を依頼してください。

修理を依頼されるときは、下の事項をお買い上げの販売店、または付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載のお近くのオンキヨー修理窓口までお知らせください。

- ▶ お 名 前
- ▶ お 電 話 番 号
- ▶ ご 住 所
- ▶ 製 品 名　GX-R3X
- ▶ で き る だ け 詳 し い 故 障 状 況

■ オンキヨー修理窓口について

詳細は付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

■ 保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。詳細は保証書をご覧ください。

■ 保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■ 補修用性能部品の保有期間について

本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この期間は経済産業省の指導によるものです。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。

ご購入されたときにご記入ください。
サービスを依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日：　　　年　　月　　日

ご購入店名：

Tel.　　　（　　）

メモ：

ONKYO®

オンキヨー株式会社

本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540



http://www.onkyo.com/jp/
http://www.wavio.net/

製品のご使用方法についてのお問い合わせ先：カスタマーセンター
ナビダイヤル☎0570(01)8111（全国どこからでも市内通話料金で通話いただけます）
または☎072(831)8111（携帯電話、PHSから）

G0404-1

SN 29343804

